

弘前藩日記目録

(六)

弘前藩政史研究会編

延宝八庚申年十月大(承前)

十五庚子日 晦

2. 本日の御礼中止の旨を達す

3. 江戸へ飛脚

4. 江戸より茶壺、御所柿など到着

十六辛丑日 暘

1. 贈答、靴履を松田五郎左江内持参

2. 火の見櫓番

の足輕を降雪後減少すべき由申渡す

十七壬寅日 霜 暘

1. 3. 御目見(三項)

4. 久保田よりの使者発足の

報告

十八癸卯日 霜

1. 江戸へ飛脚 2. 山鹿八郎左江内到着祝儀の料理

3. 塩島勘左江内江戸登につき臨贈獸を埒す

十九甲辰日 雨 五刻雪

1. 豊島勘左江内(他一)発足

2. 3. 下向の祝儀の振舞い、文書院へ

廿二日 昨夜五刻雪及今已刻

1. 江戸より飛脚 2. 添田儀左江内預の普請場へ町人

足五十人、木挽五人を出すことを命ず

3. 金本并越山より御禮 4. 葛西源右江内の湯治願許

可 5. 若殿様拝領の玄猪を進上

廿一丙午日 暘

1. 山鹿八郎左江内登城

2. 左門の子息死、悔みの使

者 3. 左門の子息死去につき玄蕃鼎宅、忌赦免の

由申渡す

4. 藩江半右江内忌のため出仕せす

5. 費櫓四斗五升在々より台所へ上す

6. 伊左江内足

の痛みのため登城せす

7. 文書院へ玄猪を進む

8. 松平兵庫へ飛脚を直す

廿二丁未日 暘 夜雪

1. 用人の登城退出時刻について仰付け

2. 3. 上松九

兵江(他一)の木鼓の定拝借願許可

4. 5. 御禮役

者、御礼役者へ直付け御能仰付ける旨申渡す

6. 7. 明日の飛脚で江戸用人借金有高借人書付、江戸長

屋割帳を下すべきことを申登す

8. 外記忌御免(

左門の子息死去による)

廿三戊申日 暘

1. 5. 4. 若殿様玄猪拝領につき祝儀の登城(四項)

5. 8. 組頭、物頭へ登城の上下について申渡す(四項)

9. 江戸へ飛脚

10. 山鹿八郎左江内、主馬本屋敷へ

移るについで祝儀

12. 比の丸へ御出

13 北村弥右卫门組番頭の跡役任命 14 5 12 毛内有右

紅門(他四) 悴病死について惣領願許可(五項)

19 成田吉左卫門の臂名跡の願許可 20 縁組許可

21 婚約願許可 22 清江半右卫門支配小田桐儀左卫門

の跡式許可 23 24 松野勘兵衛(他一)の縁組許可

25 小嶋伝兵衛の跡式、実子なきため没取の旨申渡す

26 足輕目付黒滝太郎右卫門未根沢へ御用につき歩行夫

一人拜借許可

廿四己酉日 雪 晦

1 明日の報恩寺御参詣の香奠についての仰出

2 3 善文院の命日につき隣松寺へ香奠 4 5 西馬場

へ御出 6 7 打越席左卫門(他一)の跡式許可

8 北曲輪の米叔蔵を監物、勘右卫門、甚右卫門見分す

9 明日の報恩寺朝参の張番任命

廿五庚戌日 晦

1 5 6 報恩寺御参詣(六項)

7 訴訟願之書付の書式について仰付け

廿六辛亥日 雪

1 黒土刑部左卫門、林吉右卫門左々惣検地終了登城、

検地惣目録を差上ぐ 2 5 5 検地役人を諸見

6 米目納日能を催す旨仰出す 7 当番の茶道與坊主

に朝半水湯を下さることを申渡す 8 山鹿八郎左

衛門ヘタ膳

廿七壬子日 晦

1 大光寺壹四箇村の検地役人帰り、検地目録を差上ぐ

2 3 主膳組番頭大道寺源左衛門の跡役、弥右卫門組番頭

岩井八右卫門の跡役任命

4 唐牛手右卫門御山より帰り、絵図を差上ぐ

5 6 病死の御勘定算者(二名)の知行没取

7 北村弥右卫門、同武左卫門姫の差合 8 今度出羽

の本城の土境を御覧 9 明廿八日の諸御礼を例月

の通り命す

廿八癸丑日 晦 午刻雨雪

1 5 13 恒例の諸御礼(十三項)

門(他三名)の検地役御目見 14 15 黒土刑部左衛

小田桐三右卫門御目見 17 新しく番頭となつた長

尾三左卫門(他一名)御目見 18 20 岩殿初御目

見の祝儀として清江半右卫門、毛内有右卫門、疋田

長左卫門、添田儀左卫門へ時服を賜う 24 北の丸

へ 22 鵜川常雲筆の墨絵龍の屏風一奴を山鹿八郎

左卫門へ 23 25 西村市左卫門他へ山鹿八郎左衛

門御用を命ず(三項) 26 27 山鹿八郎左卫門へ文

膳、終つて西曲輪から武者屯玄兩まで巡見、北南東

の三櫓へ上る(八郎左卫門、玄蕃、監物同道)

28 庄右卫門登城

廿九甲寅日 晦 雨雪

1 2 御能の隣の久昌院への御膳役人申付け

3 神又兵衛御引孫次郎代として青森へ罷越すことを申

渡す 4.5.6.左門、北村弥右左門、進藤庄兵衛の

忌御免(三項) 7.十七日江戸発足の鷹師二名下

着 8.十一日江戸発足の斎藤太兵衛下着

9.小倉作左左門の忌御免 10.5.18.十一月初日の若殿

初御目見祝儀の能について見物を申付く(九項)

19.江戸より飛脚

廿二卯日 晩

1.書院へ、検地帰りの太田茂左左門(他一名)御目見

2.明日の御能見物仰付けの面々御礼登 3.御馬廻長

尾戸左左門(他一名)西決前戸川普請終り帰城

4.対面所にて鶴の乞丁を御覧 5.松田五郎左左門へ

来月より四九日講談、四、日全書、九、日雄鑑の講

書を命す 6.北村弥右左門明日病氣のため登城し

ない旨の断り 7.来月二日の江戸への飛脚につい

て申渡す 8.勘定奉行一助田理兵衛の印判取替を

許可 9.明日の御能の御座敷飾役他を命す

10.赤田儀左左門組寄騎斎藤吉兵衛の跡式許可

11.御能の糸屋料理について申渡す 12.山鹿八郎左左

門御能見物の御礼登城

延宝八庚申年十一月大 (月番記入なし)

一丙辰日 吹雪

1.5.5.諸御礼、御目見(五項) 6.5.18.御能(三項)

二丁巳日 晴

1.昨日の御能見物の面々不美御礼登城 2.江戸へ飛

脚 3.寒気につき清水烏屋の鷹を御鳥屋へ入置く

一ことを申渡す 4.7.外記細小山与兵衛の跡式許可

5.堀川左門組丹内儀大夫の跡式没取、幼小の伴に拘成

三分の一を下す旨申渡す 6.土岐庄助の隠居廣許

可、伴の家督相統許可 8.森内儀大夫の跡式没取、

妻子へ物戌三分の一を下す 9.右儀大夫の隠居要

取りを屋敷奉行へ申渡す

三戌午日 晴

1.5.5.父書院ほか一門へ御能見物の使者(五項)

6.5.9.右御礼の使者(四項) 10.六日七日の御能見

物の面々の御礼登城の際の記憶役人を申付く

11.六日の能に春光ほか女中見物のことを仰付く

12.面田南始予定の松田五郎左左門の兵書講談を、六日

御能につぎ九日よりとす 13.手廻二番組小山与兵

衛の伴を留守居組入れとす 14.七日の能の見物を

寺社方へ命す 15.御能見物の御礼登城の際の番番

四己未日 晩

1.六、七日御能見物の面々御礼に登城 4.徳松様西

の丸へ移られるを報する危役町下着 5.右祝儀の

使者として恵土刑部左左門来る十日発足すべき旨申

渡す 6.牧野角左左門山鹿八郎左左門宅にて始め

て逢う 7.牧野角左左門へ使者をもつて時服を産

す 8、11能のための座敷飾役の任命(四項)

12御能見物の出家の供の者の扱いについての指示

13右出家中の御礼登城の扱いについての指示

14頃五日名代として外記長勝寺へ参詣の旨申渡す

15以後毎月五日の長勝寺参詣の名代を手廻組頭の中一人とすることを指示

16毎月十四日の名代を馬廻組頭の中一人とする

17家中の若長勝寺、報恩寺参詣の節は御霊屋御石塔を遠慮し、御位牌堂のみ参詣すべき由申渡す

18進藤庄兵衛里見又兵衛下着にのぎ庄兵衛宅へ引取たき由の願を許可

19六日御能見物の廿中より祝儀差上げること無用の旨申渡す

20六、七日の御能の際の城郭内の様式を

申渡す

五庚申日 雪一尺五寸許 夜地震三度

1、外記代参として長勝寺参詣 2、酒造改を在々は郡奉行、町は町奉行動むべきことを申渡す

3、申刻より由西の方向に幅二尺長十間余の雲の如きものあり、言上のところ、書院屯の向にて御覧

六辛酉日 風雪 寅刻地震

1、御祝儀の御能

七壬戌日 風雪

1、御祝儀の御能 2、3、重役の明日の勤務について(二項)

八癸亥日

風雪

1、昨日の能見物の御礼に寺社方登城 2、北の丸へ御出

3、4、伊左江内、左内、次郎市、次大夫登城

5、津嶋八郎兵衛祝言にのき宿下り許可 6、五日の如く雪見え、御覧、五日より毎夜見える由

7、江戸より飛脚

九甲子日 雪

1、2、昨晩の飛脚により、久世出雲守殿様男子平産の由

一内祝儀のため登城 3、松田五郎左江内書院にて全書講談

4、晋森町奉行前田名次右江内御目見

5、山鹿五左江内口切茶他を進物、玄蕃以下相伴にて御料理

6、渡辺菊十代の前髪執、名替許可

十乙丑日 晦 雪

1、北村源次郎袖田願の御礼登城 2、重牛甚右江内へ

百石加増 3、杉山八兵衛へ来る狂頭の使者として

江戸登りを命ず 4、久保田市郎左江内を召し、大目付役を命ず

5、岡田理右江内を市郎左江内跡役大粗足輕頭に任ず

6、傍嶋主水を理右江内跡役持筒足輕頭に任ず

7、桜庭半兵衛を主水跡役小粗足輕頭に任ず

8、9、右加増及び役儀の御礼

10、理右江内、主水、半兵衛の御番の勤方について

11、玄藩へ無礼の仕形あつた進藤庄兵衛組赤石源兵衛へ

通塞を命ず 12、14、目付、歩行目付、兎小性目付、足輕目付を呼出し、新任大目付久保田市郎左江内支

配を申渡す(三項) 15十二日に下向以後はじめ
て評定所にて寄合を開くことを命ず、寄合の人数の
寛充

十一丙寅日 堀少曹

- 1、3、唐牛甚右江内加増の御礼、久保田市郎左江内役
替の御礼としてそれ〆〆樽代、干麴を差上ぐ(三項)
 - 4、所々の御蔵奉行に当年役を仰付る旨申渡す
 - 5、岡田理右江内を市郎左江内の跡与方に任ず
 - 6、山鷲養鷹一居を今別上平の鳥屋に留むこと上聞
- 十二丁卯日 堀

- 1、2、久保田市郎左江内、吉村堀左江内普詞 3、工藤
空石江内、益森仁左江内、樋口善兵江内に御蔵の役儀
勤務の褒美として時服を賜う 4、伊右江内登城
- 5、樋口善兵江内時服拜領の御礼として次大夫登城
- 6、寄合所へ諸役人出仕、祝儀として吸物、酒を下さる
- 7、弘前、高杉、坂屋野太、三世寺、石渡、徳田断の大
十所の御米蔵奉行、同目付、改めて仰付られるによ
り普詞 8、右御蔵勤方について箇条書を渡す
- 9、田山謙左江内尾御免を仰付く 10、野崎十太夫へ
他一名へ玄蕃御用産とす 11、御用人の御用を未
刻迄とす

十三戊辰日 堀

- 1、明朝御名代として渡辺次大夫へ長勝寺参詣を命ず
- 2、庶宮勘右江内を赤根沢藩土堀所へ置す由仰付く

3、藩士致三右江内奉書二區他を持参して江戸より下着
十四己巳日 風雪

1、次大夫名代として長勝寺参詣を勤め登城

2、書院にて松田五郎左江内、雄鑑書談、組頭中より手
廻山小佳内弟まで罷出る 3、中小佳小幡彦八(他

一名)四人扶持にて不足の由申立てにのき、二人扶
持は米、二人扶持は江戸の米相場にて銀子を渡すこ
とを申渡す 4、唐牛九右江内病氣本復するも耳直

きにより、追守堀組毛内有右江内支配とす

5、渡辺菊千代前髪執、名替の御礼として鳥目を差上ぐ
6、次郎市組田村郷太郎梓権太郎の初目見願許可

7、黒土刑部左江内侍従殿助の月並御礼願許可

十五庚午日 雪

1、恒例の諸御礼 2、左門今迄仰付けの御組差上ぐ、
蔵米二百俵を合力米として下さる。 3、高倉五兵江

渡辺次大夫を召し、年寄に付き紅裏御免とし、紅裏
の時服を賜う 4、5、城付足輕組頭、足輕頭、長

柄奉行、町奉行、勘定奉行の役替(七名)

11、山鹿八郎左江内より重箱一他を差上ぐ 12、川吉

藩内室他一門の女子に下着の祝儀として紗綾、綿を
贈る(大項) 13、小川金太夫料理入積につぎ褒美

として黄金一枚を賜る 14、山田清左江内の櫛眉願

許可、今迄の二十石、日銀十枚を櫛眉願とし、金子
五十兩の切米を倅才兵江に賜う 20、上松九兵江に

金子十面五人扶持を賜う 21 高橋太左江内に加恩
として黄金一枚二人扶持を賜う 22 23 右九兵衛、
太左江内御礼言上 24 惣御役者今迄所奉行支配の
ところを御用人支配とす

十六辛未日 雪

1. 左内合力米二百俵の御礼として樽代千鰯を差上ぐ
2. 伊右江内登城 3. 十月晦日江戸発の飛脚二人御内
書御奉書持参下着 4. 江戸より飛脚 5. 夕御膳
夜食を山鹿八郎左江内、玄藩、監物相伴する

十七壬申日 晴雪

1. 聖陽の御内書、奉書を今朝上す 2. 右御内書代替
初めて頂戴、祝儀として物頭以上登城 3. 左内預
の寺廻三番組を外記支配とす 4. 江戸へ飛脚
5. 式日寄合 6. 外記を召し、御内書の御礼として江
戸登りを命ず 7. 評定所にて狩場人数割

十八癸酉日 晴、寒入

1. 伊右江内登城 2. 玄藩景色悪く登城せず
3. 6. 御内書御礼の使者外記、年頭の使者杉山八兵衛
を召し、御用を仰付けて罷飛す (四項)

7. 外記、八兵衛明日発足を命ず 8. 11. 乳井村、悪戸
袋にて追寫符 (四項) 12. 外記江戸登り中の組支配
を玄藩、次郎市へ命ず 13. 玄藩景色悪く登城せず

(重報記載)

十九甲戌日 風雪

1. 外記、八兵衛発足 2. 書院にて松田五郎左江内諸
談

廿乙亥日 雪

1. 御内書の祝儀として伊右江内、左右江内登城

廿一丙子日 晴

1. 2. 町奉行戸田五兵衛、勘定奉行松浦次左江内誓詞
3. 西馬場へ御出、御馬御覽 4. 追寫符の雑子料理
及び夜食を山鹿八郎左江内、玄藩相伴

廿二丁丑日 雪

1. 寒中御機嫌伺いの飛脚江戸へ 2. 式日寄合
3. 松浦次左江内勘定奉行仰付けらるところ、理兵衛市
郎左江内と三人で勤むべきことを申渡す

4. 江戸より飛脚

廿三戊寅日 晴 未申刻大雪

1. 御用につき玄藩以下役人中出仕 2. 未暮の参勤例
年通り四月中参勤の由昨夜の飛脚にて申来る、物頭
以上祝儀の登城 3. 寺廻今助右江内病景快氣に
き江戸より下着 4. 右助右江内江戸にて不届のた
め通驛仰付けられた歩行二名を同道下着

廿四乙卯日 雪

1. 書院にて松田五郎左江内兵書講習 2. 代官への書
付、百姓共への書付を渡す

廿五庚辰日 雪

1. 3. 教恩寺へ仏参 (三項) 4. 昨日下午徳村端れ

にて相果てた四十四五の玄食の処置について申渡す
廿六辛巳日 雪

1. 今晩玄藩宅へお出につき玄藩登城 2. 4. 玄藩、
同内室、同家来(二名)への賜物の使者

5. 玄藩宅へお出(六項) 11. 御書物出来につき

御稱板行の者(二名)へ褒美として金子一兩宛を賜

う 12. 今珍南屋敷に靈芝が生え上ぐ、祝儀とし

て米二俵他を賜う 13. 池田金右江門病氣のところ

今朝死亡の由報告

廿七日午日 晴

1. 今日の日寄合延引 2. 3. 昨日のお出につき玄藩

同内室より御礼 4. 板太多右江門(以下十七名)

松田五郎左江門方へ兵書の茅子入り願許可

5. 右、五郎左江門一人にて罷成り向敷きにつき、磯谷

新八、小幡弥八方にて兵書承るよう申渡す

6. 新物頭、武具請年りについで指示 7. 8. 門取忠

庵外科出精につき取立て、御医者番並みに勤務を命

じ、向後月次の御礼を命ずる 9. 10. 板太多右江門

(他十名)及び町奉行、勘定奉行他の次方を伺いの

通りとする旨仰出す 11. 塩崎治郎右江門尾御免

12. 明日の御礼を辰上刻よりとす 13. 雪囲を御児小住

都屋江門とすることと命ず

廿八癸未日 雪

1. 例月の諸御礼

2. 監物お茶他を上る

3. 夕御膳

相伴、八郎左江門、玄藩 4. 傍島主水へ近く御用
のため江戸登りを命ず

廿九甲申日 雪

1. 書院にて松田五郎左江門兵書講習 2. 江戸より飛

脚、用状持参 3. 江戸より浪師下着、台所荷物持

参 4. 先月二十一日発足の松前への飛脚、日和巻

く松前に十日逗留して今日帰着、匠礼持参

廿乙酉日 晴

1. 御用につき寄合所へ役人中出仕 2. 馬場尻村百姓

与作江戸にて不届あり、差下しの追放に処するにつ

き、淀々奥番人へ通達 3. 辻直益療治能きにつ

以後例月の御礼を命ず 4. 主殿の歩行二名、江戸

にて不届あるにつき急須切直放を命ず